なまはげ館：解説 修験者説

男鹿半島を代表する2つの山である本山と真山には、かつては山を神聖なものとして信仰していた苦行僧が多く集まっていました。山岳信仰は中世の日本では特に一般的なものでした。これらの熱心な修行僧たちは、自らに精神鍛錬を課すため長期間標高の高い場所で過ごし、しばしば髪と髭は伸ばし放題にしました。それに鑑みると、地元の人々がなまはげの外見を考え出すにあたって、苦行僧たちの険しい外見が影響したと考えても、あながち大きな飛躍ではないかもしれません。また、苦行僧が珍しく山から降りてきた際には、村人たちは食べ物を提供していた可能性もあります。ひょっとするとこの習慣がベースとなって、大晦日の夜に神の使いが各家庭を訪問した際には食べ物を振る舞うというなまはげ伝統が成立した可能性もあります。